

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)

(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講師 九州歯科大学 教授 大渡 凡人 先生
2. 演題 全身疾患を持つ高齢者のリスクマネジメント
-感染性心内膜炎予防と血管収縮薬選択を中心に-
3. 日時 平成28年11月11日(金)17:30~19:30
4. 場所 共用セミナー室10(M&D タワー8F)

5. 要旨

我が国の高齢化率は2015年で26.8%であり、世界で唯一の超高齢社会である。東京都の高齢化率は沖縄以外のすべての地域に比べて低い、人口が巨大であるため高齢者の絶対数は圧倒的に多く、医療現場では重要な問題となっている。

高齢者歯科治療では全身的偶発症の発生率が上昇し、稀ではあるが死亡事例も報告されている。その重要な背景因子として全身疾患の高い併存率と薬剤服用がある。一方で社会の医療安全への要請は強く、歯科医療におけるリスクマネジメントは重要性を増している。

感染性心内膜炎は古くから抜歯による菌血症との関連が重要視される、高齢者に多い、致死的な全身的感染症である。このため同疾患の予防はリスクマネジメントして重要な課題である。しかしその結論は出ておらず、いまだに議論の対象となっている。

局所麻酔薬に含まれる血管収縮薬は、循環器疾患をもつ高齢者ではさまざまな偶発症のリスクがあるといわれ、リスクマネジメントにおいて議論の対象となってきた。しかし、その実態も十分に知られておらず、結論も出ていない。

講演ではこの2つのテーマにおける新知見を中心に有病高齢者のリスクマネジメントについて解説する。

連絡先: 硬組織薬理学分野 青木和広(内線5461)